

様式第2号（第3条関係）

行政視察等報告書

平成28年5月31日

米子市議会議長様

会派名 希望

代表者氏名 国頭

提出者氏名 矢倉

靖

強



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	矢倉 強
期日	平成28年5月23日から平成28年5月24日まで
〔概要〕（年月日・場所・内容）	5月23日 石川県かほく市 定住促進の取り組みについて 5月24日 石川県輪島市 防災組織及び防災士の育成について
〔所感〕	別紙のとおり
経費	旅費総額 43,664円

視察報告

会派 希望 矢倉 強

平成28年5月23日 かほく市行政視察

調査項目：定住促進の取り組みについて

かほく市は、人口3万4千人余りで、のどかな田園風景の広がる環境に恵まれた住みやすい地域である。金沢市に車で20分余りと通勤圏内であることなどから、全国の住みよさランキングで9位となっている。

しかし、金沢まで新幹線が来るようになり、金沢周辺の自治体は、のきなみ人口増加の傾向を示しているにもかかわらず、かほく市だけは人口減少に歯止めがかからない現状を踏まえ、思い切った若者の定住促進策を図ることとなった。

まず、平成22年度に、かほく市若者マイホーム取得奨励制度を導入した。45歳未満の市外の方が、かほく市に家を建築した場合は、100万円を奨励金として出すというものである。さらに平成23年には、かほく市定住促進計画に3つの基本方針を掲げた。1、若者層の生活支援 2、交流機会の創造 3、住み良さの向上。これに基づき、出会いサポート支援事業や子ども医療費助成の拡充、不妊治療費助成の拡充、新婚さん住まい応援事業補助金制度、木の家づくり奨励事業など、総額200万円の若者マイホーム取得事業の制度を創設した。

その他にも、子育て支援事業の拡大をはかるなどの子どもを産み育てる環境の拡充に努力している。現在は、人口の自然減少は止まっていないが、事業の成果が徐々に浸透し、若者の増加傾向にある。

大変思い切った事業であるが、これに踏み切れたのは市長の政治判断、選択と集中を実施したことにほかならない。

平成28年5月24日 輪島市行政視察

調査項目：防災組織及び防災士の育成について

輪島市は、加賀藩の前田家の統治する海上の要衝として栄え、北前船によって輪島塗が全国に広まった事は、あまりにも有名である。

その海岸部に位置する輪島市に、2007年にマグニチュード6.9の能登半島地震が発生した。幸い津波が発生しなかったが、古い町並みであった事から建物被害が甚大で、特に多くの家にあった蔵が全壊するなどの被害が出た。地震の発生が日中であったことも幸いし、火災が発生しなかったこと、多くの方が畑に出ていた事などが人的被害が少なかった要因となった。

この地震で多くの方が家を失った事から市外に転居する人が多く、この5年で人口が9%減少するなど、安心安全のまちづくりが急がれている。

災害に強いまちづくりのために、地域防災力の強化が必要であり、そこ

で防災士の育成、自主防災組織の結成促進に取り組んだ。

輪島市独自の取り組みとして、防災士に資格試験制度を導入し、資質の向上を図っている。現在、539名の防災士が活躍している。

また、自主防災組織の独自制度として、活動事業費の補助制度がある。現在、142の組織が結成されている。

他にもいろいろと対策がなされているが、この度の地震で津波が起きなかった事もあるのか、津波対策がとられているが、少し手ぬるいように感じた。

ちなみに、江戸時代の秋田沖地震の津波で甚大な被害がでている。